

認 定 書

国住指第 822 号
平成 25 年 8 月 1 日

JFE 建材株式会社
代表取締役社長 大出 直文 様
ロンシール工業株式会社
代表取締役社長 門脇 進 様

国土交通大臣 太田 昭宏



下記の構造方法等については、建築基準法第 68 条の 26 第 1 項（同法第 88 条第 1 項において準用する場合を含む。）の規定に基づき、同法第 63 条並びに同法施行令第 136 条の 2 の 2 第一号及び第二号（防火地域又は準防火地域内の建築物の屋根）の規定に適合するものであることを認める。

記

1. 認定番号
DR-1648
2. 認定をした構造方法等の名称
塩化ビニル系樹脂シート・フェノールフォーム保温板・木毛セメント板表張
／鋼製デッキプレート下地屋根
3. 認定をした構造方法等の内容
別添の通り

（注意）この認定書は、大切に保存しておいてください。

(別添)

1. 構造名

塩化ビニル系樹脂シート・フェノールフォーム保温板・木毛セメント板表張／鋼製デッキプレート下地
屋根

2. 形状及び寸法等

(寸法単位：mm)

項 目	申 請 構 造
形 状	平板
表 面 形 状	平滑
厚 さ (mm)	56.5～176.5 (下地を除く)
傾 斜 角	0° ～30°

(別添-1)

3. 材料構成

1) 主構成材料

(寸法単位：mm)

項 目	申 請 構 造
防水シート	<p>塩化ビニル系樹脂シート</p> <ul style="list-style-type: none"> ・規格 JIS A 6008 (一般複合タイプ) ・厚さ 1.5\pm0.15 ・質量 1.93\pm0.19kg/m² ・構成 <ul style="list-style-type: none"> { [1] 表層：塩化ビニル系樹脂 <ul style="list-style-type: none"> ・厚さ 0.5 ・質量 0.6kg/m² [2] 芯材：ガラス繊維不織布 <ul style="list-style-type: none"> ・厚さ 0.23\pm0.03 ・質量 30\pm3g/m² { [3] 裏層：塩化ビニル系樹脂 <ul style="list-style-type: none"> ・厚さ 1.0 ([2] ガラス繊維不織布を含む) ・質量 1.3kg/m² (有機質量1.25kg/m²) ・組成 (質量%) <ul style="list-style-type: none"> { 塩化ビニル系樹脂 ……96.2 { 無機質系添加剤 (アンチモン) ……3.8 ・シート相互の重ね 40～50 <p>[防水シートの留付け方法]：(1)，(2)のうち、いずれか一仕様とする (1) 固定金具の後打ち工法</p> <p>構成：</p> <ul style="list-style-type: none"> { [1] 固定金具 <ul style="list-style-type: none"> ・材質 塩化ビニル系樹脂被覆鋼板製 ・厚さ 1.6 (鋼板1.0) ・直径 50～60 ・間隔 300以上 [2] 固定金具留付ビス <ul style="list-style-type: none"> ・材質 鋼製又はステンレス製 ・寸法 φ6以上×L75以上 { [3] 補強シート (緩衝用) <ul style="list-style-type: none"> ・材質 塩化ビニル系樹脂 (防水シートの塩化ビニル系樹脂シートと同じ) ・厚さ 1.5 ・直径 85 [4] 補強シート (パッチ用) <ul style="list-style-type: none"> ・材質 塩化ビニル系樹脂 (防水シートの塩化ビニル系樹脂シートと同じ) ・厚さ 1.5 ・直径 150 { [5] シール材 <ul style="list-style-type: none"> ・材質 塩化ビニル系樹脂 ・質量 20g/m～30g/m (シート相互の重ね部) 15g以下/箇所 (補強シート パッチ部)

項 目	申 請 構 造
防水シート (つづき)	<p>(2) 固定金具の先打ち工法 構成：</p> <ul style="list-style-type: none"> [1] 固定金具 <ul style="list-style-type: none"> ・材質 塩化ビニル系樹脂被覆鋼板製 ・厚さ 0.7 (鋼板0.6) ・直径 60～87 ・間隔 300以上 [2] 固定金具留付ビス <ul style="list-style-type: none"> ・材質 鋼製又はステンレス製 ・寸法 φ6以上×L75以上 [3] 緩衝用パッチ <ul style="list-style-type: none"> ・材質 チップボール紙 ・厚さ 1.5以下 ・直径 100以下 [4] シール材 <ul style="list-style-type: none"> ・材質 塩化ビニル系樹脂 ・質量 20g/m～30g/m (シート相互の重ね部)
断熱材	<p>フェノールフォーム保温板</p> <ul style="list-style-type: none"> ・規格 JIS A 9511 ・厚さ $30_{\pm 2} \sim 150_{\pm 2}$ ・密度 $27_{\pm 3.0} \text{kg/m}^3 \sim 40_{\pm 4.0} \text{kg/m}^3$ ・酸素指数 $29_{\pm 2}$以上 ・面材：面材は保温板の両面に付くが、1)～5)のうち、いずれか一仕様で両面に張る場合、又は組合せで両面に張る場合の2通りとする <ol style="list-style-type: none"> 1) ポリエステル不織布 <ul style="list-style-type: none"> 厚さ $0.12_{-0.02, +0.07}$ 質量 $30_{\pm 6} \text{g/m}^2$ (有機質量30g/m²) 2) ガラス繊維不織布 <ul style="list-style-type: none"> 厚さ $0.8_{\pm 0.1}$以下 質量 $150_{\pm 15} \text{g/m}^2$以下 (有機質量60.2g/m²以下) 3) エポキシ系樹脂塗装アルミニウム合金はく (エチレン系接着剤付) <ul style="list-style-type: none"> 厚さ $0.025_{\pm 0.005} \sim 0.20_{\pm 0.05}$ 質量 $67.5_{\pm 14} \text{g/m}^2 \sim 540_{\pm 14} \text{g/m}^2$ (有機質量41g/m²以下) 4) 水酸化アルミニウム紙張アルミニウム合金はく <ul style="list-style-type: none"> 厚さ $0.109_{-0.01} \sim 0.465_{+0.05}$ 質量 $131.3_{\pm 13} \text{g/m}^2 \sim 753.5_{\pm 75} \text{g/m}^2$ (有機質量54g/m²以下) 5) ガラス繊維混抄紙 <ul style="list-style-type: none"> 厚さ $0.8_{\pm 0.1}$以下 質量 $150_{\pm 15} \text{g/m}^2$以下 (有機質量60.2g/m²以下)
野地板	<p>木毛セメント板：1)、2)のうち、いずれか一仕様とする</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 中質木毛セメント板 2) 硬質木毛セメント板 <ul style="list-style-type: none"> ・規格 JIS A 5404 ・厚さ 25以上
下 地	<p>鋼製デッキプレート</p> <ul style="list-style-type: none"> ・規格 JIS G 3352 ・高さ 50以上 ・厚さ 1.2以上 ・断面係数 $26.3 \times 10^3 \text{mm}^3/\text{m}$以上 ・材質 SDP2G

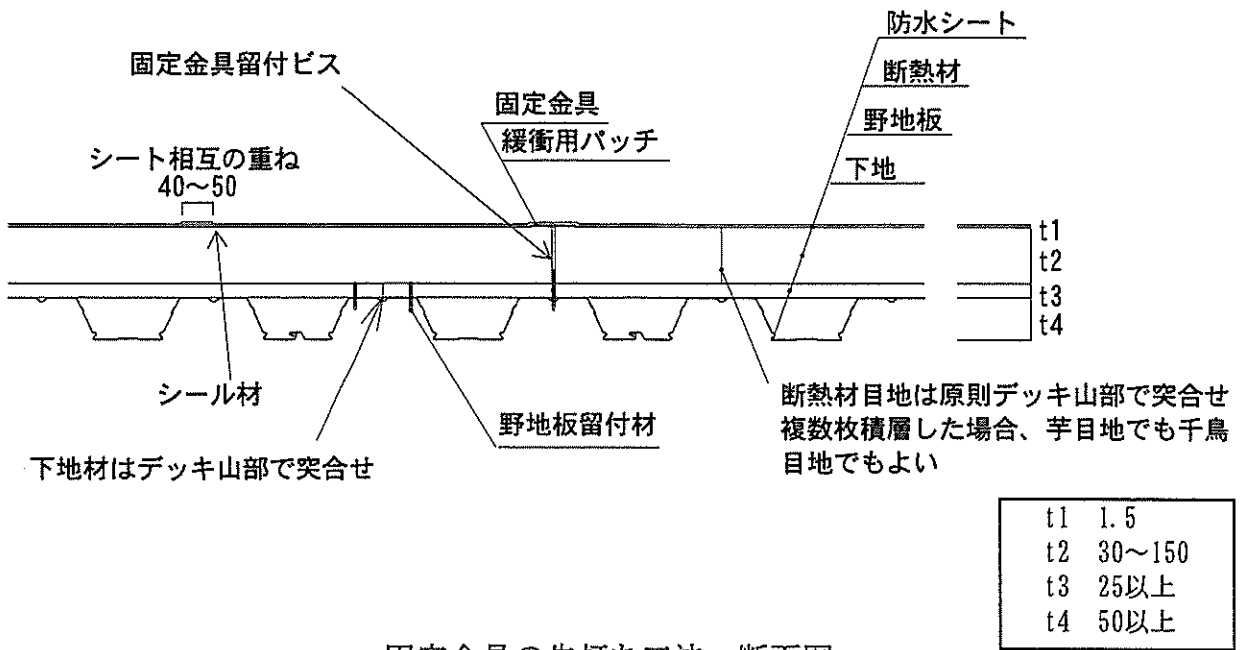
2) 副構成材料

(寸法単位：mm)

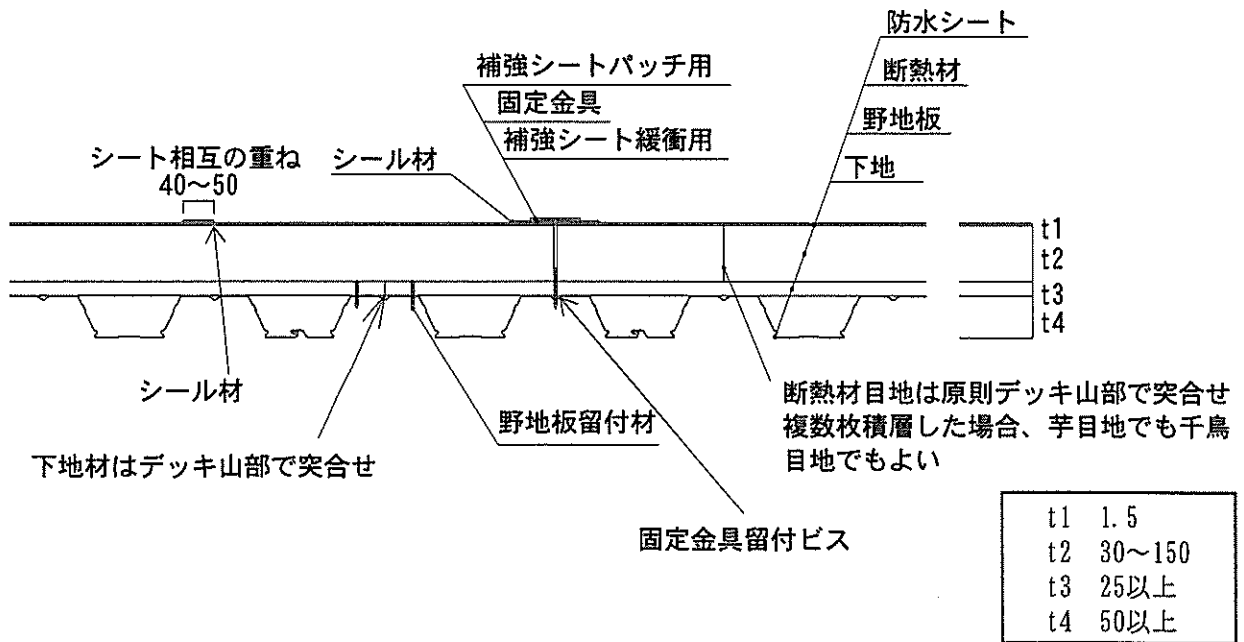
項 目	申 請 構 造
野地板 留付材	(1)、(2)のうち、いずれか一仕様とする (1)タッピンねじのねじ山をもつドリルねじ ・規格 JIS B 1124 ・寸法 $\phi 5$ 以上 \times L40以上 ・使用本数 対角線上の2箇所以上(端あき50以上) (2)ドリリングタッピンねじ ・規格 JIS B 1125 ・寸法 $\phi 5$ 以上 \times L40以上 ・使用本数 対角線上の2箇所以上(端あき50以上)

4. 構造説明図

(寸法単位：mm)



固定金具の先打ち工法 断面図



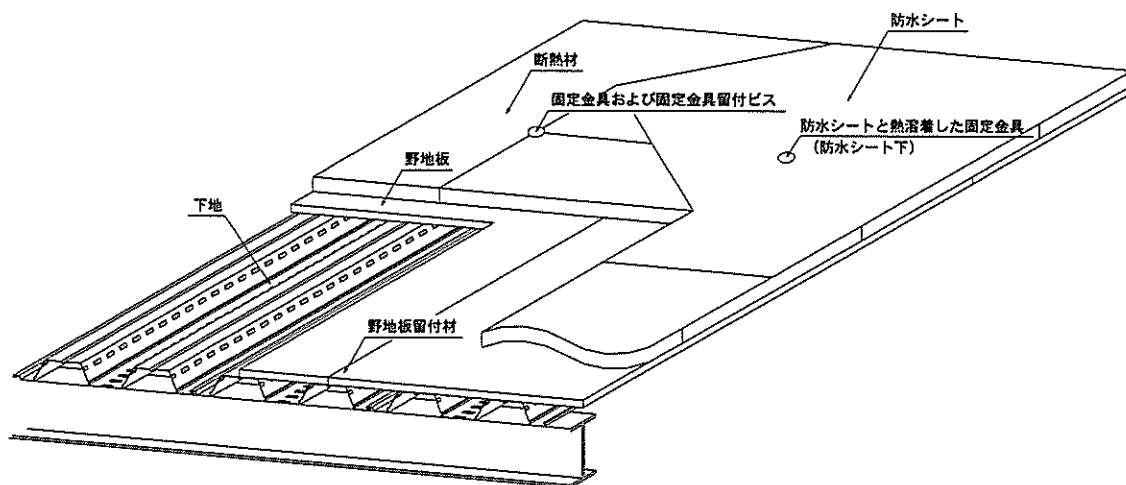
固定金具の後打ち工法 断面図

注) 寸法および材料構成は2および3のとおり

5. 施工方法等

<施工図>

固定金具の先打ち工法

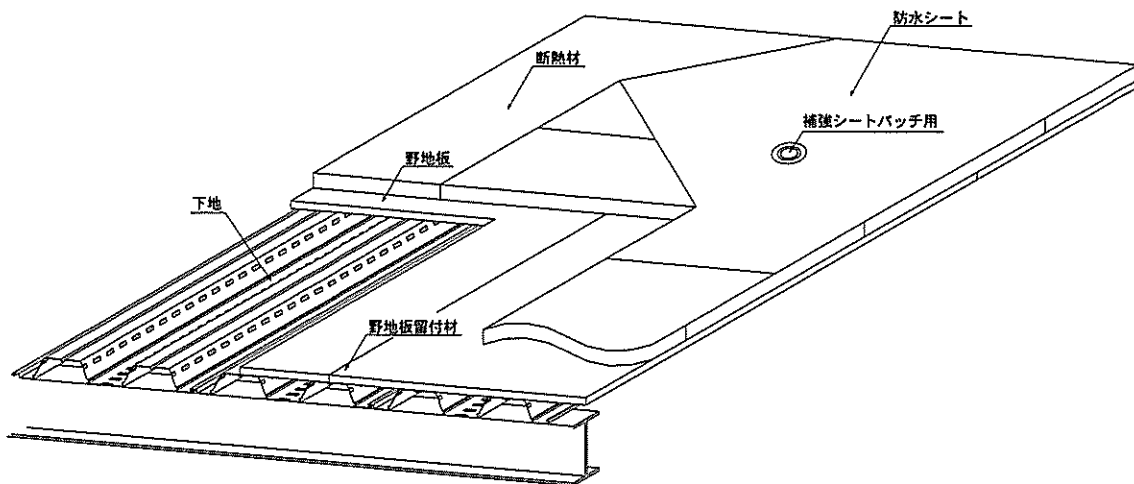


<施工手順>

- 1) デッキプレート下地に野地板を敷き込む。この時野地板はデッキ山上で突合せ、野地板留付材でデッキプレート下地と接合する（対角線上の2箇所以上）。
- 2) 断熱材を野地板の目地と重ならないよう積層し、断熱材同士は突付けで、目地位置はデッキ山上として敷き込む。断熱材を複層とする場合、断熱材目地は千鳥配置としてもよい。
- 3) 所定の位置にて固定金具と固定金具留付ビス（緩衝用パッチも併用）で、デッキプレート下地と野地板、断熱材を接合する。
- 4) 防水シートを敷き込み、重ね代40mm～50mmで溶着した後、端部をシール材で処理する。
- 5) 防水シートを電磁誘導加熱により固定金具に溶着する。

<施工図>

固定金具の後打ち工法



<施工手順>

- 1) デッキプレート下地に野地板を敷き込む。この時野地板はデッキ山上で突合せ、野地板留付材でデッキプレート下地と接合する（対角線上の2箇所以上）。
- 2) 断熱材を野地板の目地と重ならないよう積層し、断熱材同士は突付けで、目地位置はデッキ山上として敷き込む。断熱材を複層とする場合、断熱材目地は千鳥配置としてもよい。
- 3) 断熱材上に防水シートを敷き込み、重ね代40mm～50mmで溶着した後、端部をシール材で処理する。
- 4) 所定の位置にて、固定金具と固定金具留付ビスで、デッキプレート下地、野地板、断熱材、防水シートを接合する。固定金具は補強シート（緩衝用）上で固定する。
- 5) 固定金具部分に補強シート（パッチ用）を溶着し、周囲をシール材で処理する。